

自然素材住宅新聞

2010年 4月号
毎月1回 1日発行

第13号

無垢材を使う為に知っておきたい最低限の知識とは？

先月号、先々月号では私達が千葉県産材を推奨する理由をお伝えいたしました。今月号では皆様から多く質問をいただき、住宅で使用される無垢材の種類と特徴をお伝えいたします。

先月号までは、千葉県産の「杉」、「松」の特徴をお伝えしたので、今月号では、その他の木材、特に広葉樹について解説いたします。

今月号の自然素材住宅新聞を保存していただければ家づくりを行う際に木の名前でおおよそその特徴を知ることができ、皆様が家づくりを行う際にお役に立てていただけます。

「住宅で使用されている木材は大別すると2種類に分けられます。」

住宅で使用されている木材は、大別すると2種類に分けられます。その2種類とは、「針葉樹」と「広葉樹」です。

「針葉樹」と「広葉樹」では、特徴が大きく違います。まず初めに「針葉樹」と「広葉樹」の違いを解説いたします。

「針葉樹の特徴」

住宅で使用されている針葉樹で一般的な種類を以下にあげます。

- 「松(ヒノキ)」
- 「杉(スギ)」
- 「翌檜(ヒバ)」
- 「パイン」
- 「米松(ベイマツ)」
- 「米梅(ベイツガ)」

針葉樹は、広葉樹に比べ柔らかく加工が行い易いので、主に構造材、建具などに使用される事が多いです。(なかには「桐(キリ)」のように柔らかい広葉樹もあります)この中で多くの住宅で使用されているのが「米松(ベイマツ)」

「米梅(ベイツガ)」です。これらは、日本の住宅の約7/8割ぐらいで使用されており、主に集成材に加工され構造材として使用されています。

「米松」、「米梅」は北米から輸入される事が多く、金額が安価なのが特徴です。しかし、先月号でもお伝えしましたが、育った環境が日本とは大きく違い、湿気に弱く白蟻が好む木材です。

これら外国産の木材は昭和45年ごろを境に爆発的に普及しました。現在ではおよそ8割を外国産の木材が占めています。また、その頃を境に外国産の木材の弱点である白蟻を寄せ付けられない為の毒性の強い白蟻駆除の薬品が使われ始めました。

「広葉樹の特徴」

広葉樹は、一般的に硬いというイメージがありますが、広葉樹の中でも硬さによつて「軟質広葉樹」、「中硬質広葉樹」、「硬質広葉樹」の3つに大別されます。広葉樹は、針葉樹と比較して堅く、しつかりした材が多く、複雑な木目の美しさから家具や仕上材、フローリング等に使用される事が多いです。以下に一般的に使用される「広葉樹」の種類と特徴をお伝えします。

「ナラの特徴」

広葉樹の代表格とも言わべき木です。特に北海道産のナラは、西洋のオーク材と並ぶ高級材として世界に通用するブランドです。重厚で非常に堅く、椅子や土足の生活の床に適します。家具用材としての板も豊富です。また、その木目の美しさから化粧合板の表面材としても多用されています。

「カバの特徴」

建築の世界では「マカバ」「ウダイカンバ」を総称してカバと呼んでいます。ナラの特長を男性的と表現するならば、カバの魅力は優しく柔らかな女性的な表情と言えますが、材質はナラ材に匹敵する堅さを持っています。赤身と白太部分の色差がはっきりと出ますが、時間とともに徐々にわからなくなつてきます。

「カバザクラ」や「サクラ」という名前で流通している木の中には、このカバ材である場合も多々あります。「カバザクラ」は高級材であるサクラに名前を借りた造語であり、本来の「サクラ」材は原木が揃わないために、流通量が減っているのが現状です。

「クリの特徴」

ヤマグリは伐採後の再生も早く、古来より食用・建築用材として利用されてきました。北海道西南部から九州まで広く分布していますが、特に岩手や福島など東北地方に原木が豊富にあります。タンニンという防虫防腐の効果のある樹脂分を多く含むため、腐りにくいという性質を持ち、家の土台や外部用材、枕木、坑木などとして使われてきました。国鉄の枕木としては、唯一薬剤の注入無しに使える材として認知されています。しかし、電信柱として使われていたのもクリ材です。現在では内装材としての使用も増え、広葉樹のわりに「堅すぎず」、「冷たすぎない」ところが人気です。

「カリンの特徴」

タイ・ビルマなどが主な産地で、「ナライ」「パドウク」など地域により様々な呼び方があります。また、果物のカリンとはまったく異なる植物です。重くて堅い性質の割に加工がしやすい

という特長があるものの、乾燥が不十分だと狂いが出やすいという欠点があるため、用途に合わせた材の選び方が重要です。建築用材としては床板・壁板が一般的ですが、床柱などは銘木として扱われるものもあります。茶に赤を混ぜたような独特の色合いと美しい木目が特徴的です。

「桐の特徴」

桐は、私達が推奨する自然素材を使用した口ハスハウジングでは和室押入れの内装材として推奨しております。

なぜ、桐を和室押入れの内装材に推奨しているかと言うと、桐は湿度を調整する力が優れており、衣類や布団などを湿気から守ります。また、桐はアルカリ性の為、衣類を食べるイガ、コイガ、カツオブシムシなどの虫から衣類を守る防虫効果にも優れています。昔から桐は、衣類や掛け軸、へその緒など大切な物を保護してきました。このように長い歴史に培われて生まれた家具が桐タンスです。

このように一口に無垢材と言っても、その種類は多種多様で用途などによつて適材適所が異なります。それなので、これら無垢材は合板などと違い、深い知識と経験が無ければ上手に活かす事が出来ません。

私達、自然素材建築研究所では、多くの時間を使い勉強・実験を行いながらこれらの経験を積んで来ました。

自然素材や無垢材をふんだんに使用した家造りを行いたい方は、ぜひ私達が行っている「自然素材の学校」へご参加下さい。私達が培ってきた経験や知識を余す事無くお伝えいたします。

自然素材建築研究所では、定期的に自然素材を体感していただくイベントを開催しております。詳しい内容はホームページへ掲載しておりますので、そちらからご確認ください。

皆様のご参加お待ちしております。